

常磐每日新聞

定価 一月五拾五圓 半年二拾五圓 一年五拾圓
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社

笑話 嫉かれお七(下)

黄表紙織輔作

「これが不良少年の常習手段ニギリと稱する行為である。幸々」といふ様な「妙齡の子女を持つ親の心得」が當時は餘り行渡つてなかつたとみえて、親が氣附かぬ間に……娘お七もこれ亦相當なもんです。
彼女は態と毛被を持つて去り、その擧句、返しに行くと云つて彼の跡を追ひ、渡しながら、今度は彼女の方から手を握り返しました。これが戀の好機會になつて、お七はスツカリ春期發動期状態——納所坊主に彼の名を尋ねたり、ラヴレターの書き方(一名「愛の手紙」)なんて本をこつそり讀んだりして恋文雨霞。そして遂に女の方から進んで「身」も全部捧げてしまひました(あゝ、實に今も昔もよくある筋道ですナ)。
ところが年も越えて翌天和三年春二月になると、お七のパラツクが出来上つて何も知らない両親に連れられて圓乗寺さらば佐兵衛様さらばといふ事になり、たゞ嬉しいのは秘密の文通だけでした。

このメツセンチャイ。ボーイを勤めてお七のお小遣を絞つたのが地廻りの與太者吉三郎——此奴がしまひに面倒くさくなつたのか、「火事になりやあ又圓乗寺へ行けるせ」なんて放火の方法まで教へたから堪りません。
忽ち火をつけたのは、狭

【朝】紅茶 ミルク トースト チョコレート 果實

【晝】まぐろのせ御飯 わさび 清汁—うづら玉子 ほうれん草

いながらも楽しい我が家。そのどさくさまぎれに吉三郎はお七の家財道具を火事場泥棒したたので、又途端に犯人お七の事を饒舌つてしまひました。
老中土井能登守利房がお七を調べてみると、熱き戀に胸を燃やしたはずみに失火したものと情ある解釋でお七はまだ十五の子供といふ事にしたのです。その頃は十五以下なら罪をまけて



小林 季夫

かうして遂々出来上つたのはお七の黒焼——効能は戀愛病の鎮靜劑。胸の火から我が家まで類焼させ、おまけに吉公にやかれて身を滅したお七、戀の火元の名前が悪い。——炎上寺(圓乗寺)！
お八百屋の放火が悪い教訓話。まづは——ご退屈さまで。(終)

店主	が	店員
を	連	れ
か	れ	る
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
酒	場	
茶	堂	

平・田町
レストサロン
電話三五二番

木村病院
平町新川町十九
電話一六四番

ウオームコート

純毛

うらゝコート

◆獨特の編方
◆染色の堅牢
◆伸縮の自由
◆柔かい地風
◆保温満點
◆スマートな容姿
◆軽快なる着心地

以上の特長を有する優美な新製品

¥8.00 ¥7.00 霜降 ¥7.50

ツルヤ 電一四〇

謹啓父今朝吉儀不慮の災禍により去る十月二十七日午後六時旅行先に於て死去致候に付來る十一月一日午後一時自宅に於て告別式相營み可申候埋葬の儀は郷里山形縣新庄町にて神葬式により執行可致候間此段御通知申上候

昭和十年十月二十九日
福島縣石城郡内郷村大字白水

男 杉山 朝光
親戚 笹權 兵衛
總代 伊藤 軍二
友人 伊藤 軍二

喜多流 諸曲と仕舞の
お稽古をお奨め致します

喜多流 諸曲と仕舞の
お稽古をお奨め致します

平町田町六九
電話二二七番

諸橋外科醫院

(電。四六四)
平新川町二七

内臓外科
皮膚科。花柳病科
レントゲン科

醫學博士 諸橋 鐵 彌 弘
醫學士 奧 義

意城郡銀行組合

來ル十一月一日熱田神宮遷座式ニ付敬意ヲ表シ謹テ臨時休業可仕候
昭和十年十月三十日

株式會社 磐 東 銀行
株式會社 常陽銀行平支店
株式會社 常陽銀行湯本支店
株式會社 常陽銀行植田支店
株式會社 常陽銀行勿來支店
株式會社 七十七銀行平支店
株式會社 福島貯蓄銀行平支店
株式會社 福島縣農工銀行平支店

内田鐵相の 平地方視察

間割が決定

炭礦漁港各方面に亘る

(既報) 昨月二
四分上り列見
道大臣内田信也
視察日程は左
した

前二〇	平驛着	同〇、二〇	小名濱着
同	驛員訓示	同 四十分	漁港視察
同 一、二	沼の内着	同 一、〇〇	小名濱發
同 一、三	が大池視察	同 一、二〇	湯本入山着
同 一、四	沼の内發	同 二十分	入山視察
同 一、五	江名着	同 一、四〇	湯本發
同 一、六	江名發	同 一、五〇	級着
同 一、七	江名發	同 二十分	磐炭視察
同 一、八	江名發	同 一、〇〇	級發
同 一、九	江名發	同 二、〇〇	平着
同 二、〇	江名發	同 三、二〇	平發歸京

神宮競技に 堂々優勝す

府縣對抗庭球に

本縣の榮譽をかけて
奮闘した磐中と平商

晴れの明治神宮体育大會へ
縣下中等學校を代表して出
場した磐中、平商兩庭球部
選手は廿七日上野驛前山下
館に征衣を解き雨天の爲一
日休養して昨廿九日午前八
時より二萬の全國精銳と共
に「聖恩旗」の下に展開され
る明治神宮競技入場式に參
加後直ちに牛込區陸軍戸山
學校コートで舉行の府縣對
抗中等學校軟式庭球大會へ
出場し各代表の強豪を相手

に磐中、平商協力本縣の榮
譽をかけて奮闘の結果遂に
堂々優勝した、準決勝以下
の戦績左の如し

△準決勝

福 島 3 — 1 靜 岡
岡 山 3 — 2 朝 鮮

△決勝

福 島 3 — 2 岡 山
因に同大會への出場メンバ
ー左の如し

磐(大谷) 篠原 平(岩佐)
中(宮川) 水野 商(本崎)

中等庭球 快報未し

如く磐中篠原、水野組は第 二回戦に於て惜敗した

別稿全日本中等校府縣對抗
庭球大會に優勝した磐中、
平商の本縣軍は更に小石川
區航空本部コートで舉行の
全日本男子中等代表校庭球
大會へ出場したが戦績左の
報未着である

小名濱海岸攻防の 青年學校聯合演習

十一月月上旬に舉行と決定

郡下青年學校聯合會の評議
員會は昨廿九日平第一小學
校に開かれ本年度聯合演習
は十二月月上旬小名濱町を中
心に舉行することに決定し
た

園藝其他

平町の状況

平町に於ける昨年十月より
本年九月末日現在の園藝農
作物製茶並に兔飼育状況は
左の如くである

△園藝農作物(ウメ)百七
十本 四石 七十六圓
(モ)二千二百四十本

磐中上級 進學者數

縣下第三位

磐城中學校の今年度卒業生

防火運動に 模擬火災を

五日の平消防組

防火運動

平署は来る
來月五日の
防火運動實
施の爲め當
日管内各消
防組毎に檢閲練を行ひ終つて各家庭の防火檢査に移
る豫定であるが平町は午前八時より第三小學校庭で柴
田署長の檢閲を受け午後一時から全市の防火檢査、三
時からは新川をん岸で模擬火災及び水勢試驗等を行ふ
と

木炭指導

派出員不足

濱三郡木炭同業組合は木炭
製法指導に全力を傾注して
現に郡内田入村字黒田方部
及び川前村、双葉郡廣野村
及び川内村、相馬郡方面等
夫々五名の指導員を派出し
てゐるが従來同組合管内に
は五營林署が新在しそれに
各一名の割で指導員を常設
してゐた處各町村製産地の
指導に手不足を痛感するの
で更らに増員を見る模様で
あると

窮乏農家 打開打合

打開打合

天候不順と豪雨で昨年以
上の農家の窮乏を豫知される
昨今の状況に鑑み石城郡農
會は来る十一月二日午前十
時より平町團體事務所郡
内町村の農業技術員並に町
村農業主任を招集して冷害
防止耕地改良その他の農業
上の研究打合せ會を開仲冷
害對策協議を附議すること
になつた

四倉組頭協議

四倉 警察署管内二町四ヶ村の消 防組頭大會は廿七日午前九 時より同署會議室で開催左 記事項を議した

火災豫防に關する件 消
防用機械器具手入に關す
る件 消防精神涵養に關
する件 水利調査に關す
る件 秋期消防檢閲に關
する件 第六回防火運動
實施に關する件 唧筒操
法に關する件

土木委員協議

平町 は來月四日午後一時より町 會議事堂に土木委員會を開 き紺屋町國道舗裝の受益者 負擔金その他に就いて協議 する

平町 人 事
回 出 生
△二丁目一六 當時大越市
黃金町三八鈴木新兵衛氏
三女である子さん

璟晃院葬送の際には遠路御會葬被下且つ
御町重なる御香奠を賜はり難有奉鳴謝
候拜趨御禮可申述の所乍畧儀以紙上御
禮申上候
敬具
昭和十年十月三十日
兄 鈴木 堅 助
男 鈴木新右衛門
外親戚一同

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院

醫學士 鈴木 正 男
平町田町 (電話五八番)
藤田女學校前
自炊のお需めに應ず
入院の便あり

耳鼻咽喉科専門

平町町 (電話六九一番)

山内醫院

病室完備
自炊便有
醫學士 山内 亨 吉

取水口が破壊して 断水の憂目を見る

水道課狼狽其極に達し 不眠不休で修理を急ぐ

平町に於ける今回の豪雨に依る土木方面の被害は既記の如く平商校庭土止めコンクリートの龜裂を最も大とし

其他は 割合に被害が

少なかつたので稍や安堵した處水道水源地の好間村上の原地内好間川に施設してあつた堰堤が跡型もなく流失した事が発見された、同堰堤は

五本の 蛇籠より成り

水道の水を取入れる爲め河岸から突出して河水を取入口に誘引する装置であるが今度の豪雨に依り好間川は

脚躑のトンネル

けい正式の許可

松ヶ岡公園に新名所

既報平町松ヶ岡公園地内常磐線に面した傾斜崖地に脚躑を移植して松ヶ岡公園に新美観を呈さうとする案は既記の如く平町當局より水戸運輸事務所に豫てより許可申請中であつたが本州日正式に認可の指令に接したので近く第一公園の脚躑六百餘株を移植して明年の季

警中生が

丹精した 菊花香る

磐城中学校は此程同校園藝部で丹精した菊花二百餘鉢

就業十日

情夫と逃走

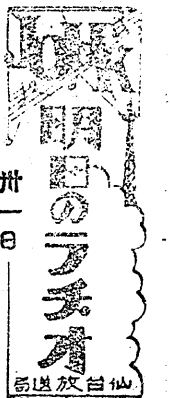
磐崎村大字藤原字上ノ内九

板間稼さ

大膽な 少年賊捕る

餘罪續々自白

小名濱町字下町小松信藏方漁夫玉川村生れ中田輝(一)假名は去る廿六日午後一時頃同町船引塚菓子屋山本勝三郎方家人の不在中賣揚銭十一圓十銭を錢箱ぐるみ窃取して平署に捕はれたが餘罪取調の結果八月十日同町湯屋吉田屋事小松力方の貴重品預り場から入浴中の神奈川縣三浦郡長井町漁船高坂丸船長木地本新造氏所有現金百六圓入墓口と同船漁夫青木石松の腕時計を窃取して全部カフエー遊びに消費した外十数件の餘罪を自白し少年ながら大膽な所置に係官を驚かした



今晚の部

今晚も明日も南西の風天氣良し

後六、〇〇 獨唱と齊唱
中山梶子 平山美代子
後六、二五 基礎英語講座
(廿三)岡倉由三郎
後七、三〇 講演「教育勅語の漢發に就て」井上哲次郎
後八、〇〇 浪花節 矢頭

右衛門 七京山小園
後八、三〇 小唄 井上聲
風片岡我童
後八、四五 ラヂオコメディー
ガラマサどん東寶グアラエテイ
後九、三〇 時報 ユーニス
氣象通報 番組豫告

近く平町で

遭難者慰靈祭

けい犠牲者の葬儀

既報平町の乗客中列車遭難の爲め歸らぬ犠牲者となつた二丁目鈴木邦三郎、四丁目齊藤榮三郎、古鍛冶町久保木正己の三氏及び飯野村山崎龍男、神谷村清野傳左工門兩氏の葬儀は本州日いつれも鐵道大臣より贈られた花環を始め香華に飾られてしめやかな裡にも盛大に行はれ鐵道側代表として仙臺鐵道局より經理課出納係長建部元春、倉庫係長吉澤國男兩氏の外三係長が葬儀に參列弔意を表したが鐵道當局では近く平町で遭難者の合同慰靈祭を盛大に行ふべく準備を進めて居る

縣道復舊

明日か

慘事の現場

磐城東線慘事の現場は既記の如く仙臺鐵道局が必死の應急工事を施し廿八日より列車の開通を見たが縣道にのしかつた土砂及び夏井川沿岸に墜落大破した列車の跡形等は未だ濟まないの現場附近の縣道開通は明日迄かゝる模様であると

國防婦人會

總會を延期

大日本國防婦人會平分會總會は十一月一日川前に開催される筈であつたが過般の川前、小川郷間の列車顛覆の大慘事突發と且それがたぬ道路が破損して通行に支障を來たすため延期されることになり變更に依る開催日は近く役員會で決定されると

水口醉が

大道で喧嘩

平町新川町建具職林太郎(三〇)は去る廿八日夜十一時頃ホロ酔機嫌で南町を通行中是れも酔除通合した大工町大工職丸山房太郎(三六)六丁目魚商松本光次(三六)の兩者が突然腕時計を盗んだのは貴様だと食つて掛つたので憤慨した林は下駄で丸山の左額部を強打し全治二週間の傷を負し警察沙汰となる

惜くも不採用

先般募集された滿洲國警士の採用試験は廿九日福島市で施行されたが平紹介所で斡旋した人員は四名で惜しくも全部採用されなかつた

長橋分團寄附

平町長橋町仙臺屋商店關正雄君は拾得金の謝禮として遺失者から贈られた金五圓を長橋町青年分團基金として寄附した

教育勅語記念

平町各學校は今卅日の教育勅語御下賜記念日に際し夫々國旗掲揚の上勅語奉讀式を行つた

後六、〇〇 子供の時間

童話劇「なんにも仙人」東京コドモグループ
後六、二五 御陵巡り「京都附近を中心とする歴代御陵」魚澄惣五郎
後七、三〇 講演「科學界のトビック」眞島正市
青年和樂の夕
後八、〇〇 諺曲「山姥」梅若武久他
後八、二〇 常磐津「角兵衛」常磐津千東勢太夫他
後八、四〇 長唄「石橋」吉住小太郎他
後九、〇〇 義太夫「一谷嫩軍記」豊竹呂太夫

長橋分團寄附

平町長橋町仙臺屋商店關正雄君は拾得金の謝禮として遺失者から贈られた金五圓を長橋町青年分團基金として寄附した

教育勅語記念

平町各學校は今卅日の教育勅語御下賜記念日に際し夫々國旗掲揚の上勅語奉讀式を行つた

水口醉が

平町新川町建具職林太郎(三〇)は去る廿八日夜十一時頃ホロ酔機嫌で南町を通行中是れも酔除通合した大工町大工職丸山房太郎(三六)六丁目魚商松本光次(三六)の兩者が突然腕時計を盗んだのは貴様だと食つて掛つたので憤慨した林は下駄で丸山の左額部を強打し全治二週間の傷を負し警察沙汰となる

良品は所有者の誇り
山業オルガン・ピアノ・特約店
國定教科書販賣所
角忠 佐々木商店
平公園前・電話二三三番



明治太平記

(上段及上段) (作) 寺島延史 (巻) 第六十三回

新 原 跡 (三)

息を殺してゐるうち、自分自身を空しくするやうになつてきた。

同 妙な獵奇趣味が頭をめぐらしてくる。過卒の追、ある身の危険を忘れ、妓樓の壁に、天井に柱に、しみ込んでゐる脂粉の香り、人間愛慾情痴の痕跡と、つたもの不思議な魅惑を感じてきた。

まだザンギリ頭にならぬ時分、大志賀は築地居留地の諸外國を真似て素見にさした。ある。黒羽二重紋の着しに朱鞘の一刀を落し、赤毛服たちと肩をならべて漂々漫歩したころの生々しい記憶を不思議といま彼は思ひ出した。

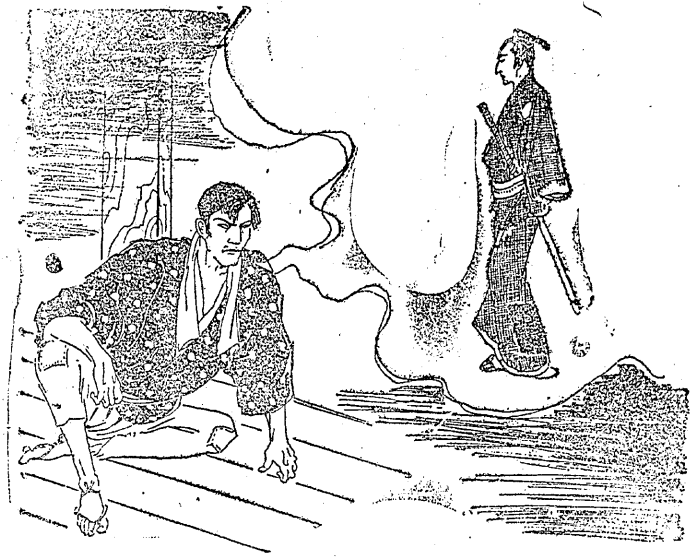
たしか中萬字屋をおもふが……

御開門外の御待合茶屋へ上つて、そこで受取つた告條の全文が、いまたにあり、と頭に殘つてゐる。

彼はなせかそれをこゝろのうちで讀み返した。

秋冷の砌益々御壯健

奉賀候、随つて當所の儀はかけまくも彼所に一廓の地を賜ひ新島原と名号つゝ、柳櫻をこきませし都々春の錦繪を東京へ寫す京女蘭、張、意氣地は土地がらにて、衣裳は遠



い長崎をたとへに引にも及ばずして、各國競ふ海外もやう、されどもホテルの屋の棟ほど、高いと噂立つが弓矢を射る風説かしましけれど中々もつてそのやうに、無益の寶を投げうち玉はで、手軽く遊べる工夫を凝す、左の三樓の主人に代して此

披露申すも只管に、土地繁昌を專一と世間の虚説を打消して、彼の奥州が挑燈ならねど、てれんいはり内證より、美酒と佳者を呈上いたし、御もてなしさへ細やかに、君が姿の柳腰はそく長きを偏に願ひ、夜るの物さへ折程も、穢んし品を用ひねば、枕の紙の取かへ引かへ御運びを希ふになん築地の漁夫 鐵子述

ふ、なか／＼の名文ぢやつた。何でも太夫は晝夜揚代金一兩二分、晝金

三分、夜金三分、妓郎は晝夜揚代金一兩、晝金二分、夜金二分といふ定めだつたあ、のとき街條に釣られて上つたが、はて一世一代の笑ひごとさへ、おもはず聲をあげて笑つておどろいて口を結んだ。まだ過卒の聲がしてゐるではないか。

うかつに、ひかしの夢によふてむさ／＼彼奴等に捕まつては恥の上塗りだともつた。

が、そのとき、一人の過卒の靴音を妓樓の入口にきいて、大志賀はさすがにギョツとした。

萬事休す……

ついで、二人三人の靴音……

いまの獨笑をききつけて、屋内を隈なく搜索しようといふのだらう。

大志賀はやみくもの中で後退りした。

いのちが惜いのではないまして、版畫の手觸りのやうな遊興の記憶を辿らうといふでもない。過卒たちの靴音に釣られて、しぜんこの妓樓の二階座敷のなへ踊

玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番

高久病院

院長 醫學士 高久 忠

副院長 新潟醫學士 赤羽 清

藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科

平町田町 電話五一三番

つてゆく大志賀の足取りだつた。

銀座の松田とは比較にならないが、この表階段も可成り幅ひろいものだつた。

安齊 外科醫院

平町・田町 電話四七五番

磐城名産

美味 鰹

しほから

當店特製 鰹節賣出し

市原醫院

平町田町 (電一四番)

外科 小兒科 市原卯太郎

外科梅毒・淋病 市原三三男

入院隨時

久金屋洋品店

磐城セメント會社特約店

良品廉賣に勝る商略なし

確實敏捷は の生命なり

磐城平町五丁目 電話九番九九

魚問屋

店商榮盛賀志 (三一電) 目丁四平

レストラフ 平岡館

電話 624